

開催地名	静岡県湖西市
開催日時	令和5年10月21日(土) 09:30～11:00
開催場所	西部地域センター
語り部	菅野 澄枝 (宮城県仙台市)
参加者	地域住民(女性) 19名
開催経緯	湖西市では、指定避難所毎に自治会や自主防災会を中心に避難所の開設や運営について連絡会や訓練を行っている。避難所運営には女性や子ども等への配慮が特に重要となっており、女性の要望や意見を反映させられる女性防災リーダーの育成が課題となっている。
内容	<p>(1) 東日本大震災・仙台市宮城野区岩切</p> <p>仙台市宮城野区岩切は、海岸線から10キロメートル程度内陸にあるにも関わらず、七北田川を遡上して津波による浸水、自転車や木の切れ端が流れ着いた。地震後はすぐに停電となり、津波の影響はそこまで大きくなかったが、すぐに避難所の準備の為に移動しており、当時、スマートフォンは普及しておらず、スマートフォンを利用した情報収集も出来ず、テレビやラジオをゆっくり見ることも出来なかった。ラジオが騒いでおり、海辺にたくさんの死体が上がったと流れていた。そんな事はない、情報が遮断されていた為に一生懸命に行動をしないといけない状況だったので今現在に至っていると思う。もし正しい情報が入ってきていたら、東北も仙台もどこもかしこもだめになったと力が入らなくなっていたと思う。</p> <p>東日本大震災は14時46分に発災で、岩切は大きな七北田川と道路で4等分された地区で大きな橋を渡らなければ行けない。小学校1年生、2年生が帰宅する時間でどれほど怖い思いをしたらろうと思っていた。通学路ではマンホールが持ち上がり、水が吹き出し、ブロック塀が崩壊、橋は大きく揺れ、停電になり信号機も止まり帰ってこられなかったが、近隣住民の方々が道路を渡れない子供たちに対して横断歩道を渡れるように誘導してくれ、帰宅のお手伝いをしてくれた。その方々の何気ない行動、一言が子供達に安心感を与えてくれた。</p> <p>沿岸部のみなさんの家屋の判定は無条件で全壊判定に、役所の方が一軒一軒訪問して損壊状況を確認するが殆どの家は一部損壊として取り扱われたが、実際の現場ではあの人の家は大規模半壊に判定されたいよとロコミで広がっており、判定に満足しない人は何回も判定のし直しをしたりする事も現場では起こっていた。</p> <p>(2) 仙台市地域防災リーダー(SBL)</p> <p>外では講演などの啓蒙活動、地域での活動は顔の見える関係づくり、災害に対する備えを推進する。災害時にも地域の顔の見える方がいると安心すると言ってもらえる。</p> <p>防災訓練の際には企画の段階から岩切地区SBLは参加する。災害対策本部の一員なので各町内会の会長、防災担当と話し合いどのような防災訓練をすれば住民のみなさんが助かるのかと地域のみなさんと考える。発災時にはいつもSBLがいるからねと応急活動の指揮、避難所の運営を行い安心感も持ってもらえるようになった。SBLになるには、町内会、連合町内会の推薦を受け、研修を受ける必要があり、町内会の防災担当の方がなる事が多い。ご自身で手を上げてSBLに参加したいという方は、60代後半</p>

から 70 代の男性が多く、防災、防犯、交通安全等の大切な事、決定の場に女性が少ない。現在仙台市の SBL は 774 人で、人口 106 万人都市では少ない。そのうち女性は 189 人で 4 分 1 だ。震災後 2 年目から女性比率を下げおらず、下げない為に NPO 法人が女性防災リーダーの養成講座を企画して、養成講座を受講した方はご自身の地域で活動する事を募集要件にする事で、震災後 2 年目から女性比率が 4 分の 1 となりそのバランスを保っている。

岩切町内会では女性リーダーが 4 名、男性リーダーが 1 名であり、PTA、町内会、社会学級等の学びの場で繋がる事が多い地域で女性たちが何かやろうと動きやすかった為に女性が多い SBL となっている。震災の 9 か月前の宮城野区長は女性で岩切の女性に、今の防災訓練は大きな地震の際に地域の住民を守れる訓練になっているのか、今現在の昼間に地域の住民を守れるのは高齢者、女性、子供なので女性の意見が大切だよとメッセージをくれて完成したのが、【岩切・女性たちの防災宣言 2015】である。この宣言は 2015 国連防災世界会議でとりあげられた。

コロナ時に避難所を運営する際にも上記の宣言がものすごく頭の中にあるので、避難所の運営を行いたいという気持ちが湧いてきて運営を行った。防災を学ぶだけではなく、何か 1 つ行動を起こす、大きなことでなくても、出来ること、小さなことから初めてみる、菅野氏も特別な人ではなく、ただの母親であった。だが、今仙台市の SBL になり、このような活動をしている。特別な人が特別な活動をするところではない。

震災も大雨も怖い、今のところ SBL に関しては大雨の際に必ず招集されるという事はないが、岩切地区は指定避難所の担当に張り付いているので、行政に頼まれた立場でなくても、大雨の時にも必ず寄るようにしている。それはこの程度で避難所へ行ってもいいのかと躊躇する人を少しでも減らす為だ。

震災時の避難所は震度 6 で開設されるが、岩切では安心のハードルを下げるために震度 5 で避難所を開く特別ルールがある。女性や災害時の弱者の方は物事を決める場にってもらいたい為でもある。

地域というのは、お互いに支えあうことで何とか持ち直せ、より良くなるものである。



開催地より

東日本大震災の体験談を交えながら、仙台市地域防災リーダー (SBL) としての活動についてお話しいただいた。今回の講演を受けて当市では、自分のできることは何かを考え、当事者意識を持って日頃の防災活動に取り組んでいただくよう、住民に対して啓蒙してくとともに、備蓄の呼びかけを推進していきたい。